

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年6月1日発行（毎月一回発行）第689号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

ダンテ『神曲』 住谷 眞

本・批評と紹介

佐藤司郎 著

カール・バルトの教会論 寺園喜基

松本敏之 著

マタイ福音書を読もう3 大村修文

C.ファン・レーウェン 著／池永 倫明 訳

コンパクト聖書注解

ホセア書 野木虔一

クリスティアン・メラウ 著／小泉 健 訳

魂への配慮としての説教 川崎公平

大西晴樹 著

キリスト教学校教育史話 塩野和夫

喜田川 信 著

バルト神学の真髄 坂本 誠

牧田吉和 著

改革派教義学2

神 論 神代真砂実

土岐健治 著

ヨナのしるし 荒川博行

大頭眞一 著

聖書はさらに物語る 工藤信夫

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

書店案内

6 JUNE
2015



心の琴線をふるわせるイエスの姿とその悲愛(アガペー)を、多くの友にとどけたい

井上洋治著作選集 4 全5巻 わが師イエスの生涯

山根道公 解題 広谷和文 解説

福音の喜びを伝えることに生涯を賭けてきた著者が、イエスの誕生から復活までを渾身の力を尽くして完成したライフワーク。遠藤周作氏、安岡章太郎氏との座談会も収録。

◆A5判 上製・248頁・2,700円



私たちがお薦めします

一貫して、
キリストその人の
悲愛を説いた人

渡辺和子

ノートルダム
清心学園理事長



キリスト教信仰の
日本への土着化を
実践した先生

佐藤 優

作家・元外務省
主任分析官



現代社会に
〈たましいのやすらぎ〉
を与える書

木崎さと子

作家



シリーズ刊行案内 各巻2,700円

- 1 日本とイエスの顔 7月刊
- 2 余白の旅―思索のあと 9月刊
- 3 キリストを選んだ男
―パウロの生涯 11月刊
- 5 遺稿集
「南無アッパ」の祈り

好評
発売中

より豊かな礼拝・さんびのための
有用な情報を提供

こどもさんびか 改訂版略解

日本基督教団讃美歌委員会 編

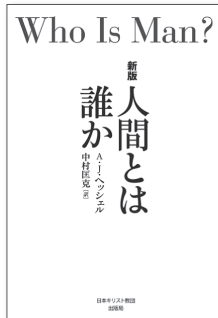


◆A5判 並製・148頁・1,620円
各さんびかの作詞・作曲の経緯
や歴史的背景など、さんびかの
新しい可能性の発見をうながす
情報と解説を収録。

神との正しい関係において
「人間で在ること」の論理を追求

新版 人間とは誰か

A.J.ヘッセル 中村匡克 訳



◆四六判 並製・224頁・2,376円
20世紀の代表的ユダヤ教思想家
が、神に「問題」とされ、個々人
が信仰という形で応答する具体
的実存としての人間を探究する。



出会い・本・人

ダンテ『神曲』——住谷眞

私のダンテとの出会いは高校生の時である。私は河出書房新社から出ていたグリーン版の『神曲』を読んだが、当時の私の力では歯が立たなかった。『神曲』を本格的に読み始めたのは、五年前に同人として所属している短歌結社の月刊誌に連載するようになってからである。ここでは、地獄篇第七歌から話をしたい。

第八圈第八囊でオデュッセイアの次に炎の中から二人に語りかけたのは、ガイド・ダ・モンテフェルトロというダンテと同時代の軍人であった。それによれば、この人は謀略に長けた將軍であったが、晩年に悔い改めてフランシスコ会の修道士となった。ところが、当時、ローマ郊外のバレストリーナにあったコロンナ家のプレネステイノ城を攻め倦んでいたローマ教皇ボニファキウス八世より贖宥を与えるから城の攻略法を教えてくれとの求めに応じ、教皇に姦計を授け、その策略により城は明け渡される。その結果、ガイドは悪天使により欺瞞者としてここに落とされる。

ここでもダンテは教皇権を濫用し、領土拡張の野心に燃えるボニファキウス八世を痛烈に批判している。ガイドはボニファキウスについて言う、「新しいパリサイ人の長はラテラーノの近くで戦さをしていて。相手はサラセン人でもユダヤ人でもない。敵はみなキリスト教徒なのだ。アクラを奪取した回教徒でも回教徒に

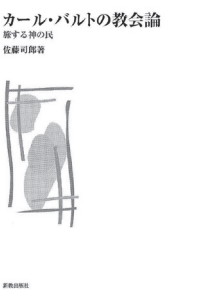
武器を売りこんだ商人でもない。彼は自己の尊厳も聖職者という身分もまた私の（修道士の）腰縄も顧慮しなかった」（平川祐弘訳）。一〇九五年の教皇ウルバヌス二世の呼びかけに始まった聖地奪還の十字軍運動は、一二九一年のアクラ陥落により、イスラム側の勝利、キリスト教ヨーロッパ側の敗北に終わったのであるが、このような状況にあつてボニファキウスが勢力拡大のためキリスト教徒たちと戦争に明け暮れていることにダンテは憤激している。

ところでこのような中でイスラム教徒に武器を売るキリスト教側の商人もいたことがわかる。文献に武器商人、いわゆる「死の商人」の存在が出てくるのは『神曲』が最初かも知れない。十三世紀には彼らは既に存在していた。武器商人はただ金銭的な利益のみを追求する。現代世界にも、麻薬組織や国際テロ集団、紛争や内戦状態にある国や地域などに武器を売っている（個人、企業、国家等の）「死の商人」と、彼らを支える（麻薬、人身売買、国の謀略機関や金融資本等による）資金源がグローバルに存在している。六年後、ダンテ没後七〇〇年を迎える。その二〇二一年に私は、自分がこれまで『神曲』を読み、書き続けてきたものをささやかな書物に纏め、ダンテへの私のささげものと思っ

（すみたに・まこと＝牧師、新約学者、歌人、神曲愛好家）

バルトの教会論の全体像
佐藤司郎著

カール・バルトの教会論 旅する神の民



寺園喜基

「バルトをもつて教会は建てられない」ということは時おり耳にする。これはまったくの誤解に過ぎないのだが、しかし他の神学的テーマに比べるとバルトの教会論はあまりテーマにされてこなかった。いわんや彼の教会理解の全体像を統一的に解明するという試みはほとんどなされなかった。このような中で佐藤司郎氏の『カール・バルトの教会論——旅する神の民』が出版された。これは貴重な労作であって、バルト研究者や組織神学研究者にも、教会について考えてみようとする人たちにも、今後不可欠な重要文献となるであろう。

本書はバルトの生涯にわたる神学的歩みに対応しつつ組み立てられている。そしてそれは、バルトの教会論がその都度の時代や社会、教会や神学との対話の中で状況連関的に展開されていること、したがって運動論という性格を持っていることをも示している。

本書の内容を概観してみよう。本書は五章に分けて章が立てられる。まず第一章ではザーフェンヴィルの牧師時代における『ローマ書』における教会論が扱われる。ここでは自由主義的

神学における教会の危機を鋭く批判することが論じられる。

第二章は、「二十年代から三十年代にかけての教会理解」と題されているが、これは『教会教義学』（KD）のプロレゴメナにおける教会論を扱っているものである。ここでは特に自然神学、「創造の秩序」、民族主義的神学と対峙しつつ、教会論のキリスト論的な基礎づけが明確化されている。

第三章は、『バルメン神学宣言』の教会論である。ここでは教会闘争のコンテキストの中で教会論が展開される。この時期に重要な働きをなした「バルメン神学宣言」を中心に、「福音と律法」、「義認と法」、「キリスト者共同体と市民共同体」などをテキストにしながら、議論が進行している。

第四章においてKD第二巻第二分冊の予定論における教会理解が取り上げられる。ここでバルトがイスラエルと教会を「一つの神の民（ゲマインデ）」の「二つの形態」として捉えていることの意味が示される。また、予定論における神の永遠の契約が和解論における和解の出来事の内的な前提であることに対応して（契約は和解の前提であり、和解は契約の成就であ

る）、予定論における教会論が和解論における教会論の基礎をなしていることが論じられる。

本書のおよそ三分の一の頁数をKD第四巻第一、二、三分冊の和解論における教会論が占めているが、これが第五章の「和解論の教会論」である。ここではキリスト論と教会論との関連が明確に示されている（ちなみに井上良雄氏は和解論における教会論の箇所のみを抜粋して『地上を旅する神の民——バルト「和解論」の教会論』新教出版社、一九九〇年、を出版している）。

和解論第一分冊におけるキリスト論が「真の神イエス・キリスト」の卑下を論じていることに対応して、教会の存在が論じられる。第二分冊の「真の人間イエス・キリスト」の高挙に対応しては教会の建設が展開され、さらに第三分冊の「真の証人イエス・キリスト」の啓示に対応しては教会の派遣が論じられる。これらのバルトの議論はそのコンテキストをカトリック的な教会理解や仮現論的な教会理解また世俗化した教会理解など

との対峙の内に持っている。そして積極的には「バルメン神学宣言」の教会理解が根底にあることを指摘している。

以上、内容を概観したが、本書の特徴として「バルメン神学宣言」の扱い方あるいは位置づけを挙げることができる。すなわち、著者は「バルメン神学宣言」の教会論をKDのプロレゴメナから予定論、和解論へと至る線上の傍らにある補助としてではなく、バルトの教会論全体を捉えるカギにしている。そこから、教会をイエス・キリストが働き給う「兄弟（姉妹）たちの共同体」（バルメン第三項）として、福音を証しすることを委託された「成人した教会」を指すべきことを示しているのである。

（つらその・よしき＝福岡女学院院長）
（A5判・三七九頁＋略語表、人名・事項索引、文献表・本体五五〇〇円＋税・新教出版社）

希望に照らされて 深き淵より

2014年上智大学神学部夏期神学講習会講演集



宮本久雄／武田なほみ 編著

月本昭男、島蘭進、黒島偉作他の執筆陣が、聖書や思想に基盤をおき、立体的に「希望」というテーマに挑む。

四六判 並製・290頁・3024円

手話で歌おう！ おとなも子どもも一緒にさんび



原崎悦子 手話指導 石橋えり子 イラスト

『こどもさんびか改訂版』、『讃美歌21』に共通の賛美歌を中心に、神さまの愛を生き生きと伝える18曲を収録。

B5判 並製・40頁・1080円

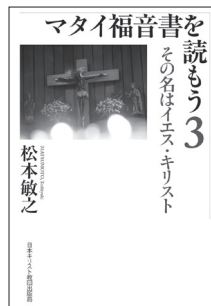
日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

<http://bp-uccj.jp>

聖書を生きているか、問いかけてくる
松本敏之著

マタイ福音書を読もう3 その名はイエス・キリスト



大村修文

聖書は学ぶものではなく生きるものだ、という言葉は真実である。しかし聖書を学ぶことなしにそれに生かされることもありえない。「マタイによる福音書」はクリスチャンに限らず広く読まれ、言葉もよく知られている。しかし神の言葉として深く受け止めたかと問われると、何十回も読んだ者でもおぼつかなくなる。私の教会の主日礼拝では今その講解説教がなされているが、その都度「そうだったのか」とはっと気づかされる。

それゆえに、自分で聖書を読む場合、導き手が必要になる。このシリーズの1、2巻で紹介されているとおり、本書はこれからキリスト教を学ぼうとする人にも手引きとなるが、恐らく著者が対象として想定する主な読者は、長く教会生活を送ってきたはずの人たちであろう。私もその一人である。

松本敏之牧師の立場の独自性は、プロテスタントの伝統的解釈に立ちながら、解放の神学やエキュメニカル神学の理解を取り入れている点である。ブラジルでの長い伝道牧会経験を踏まえ現実社会との接点を重視しつつ、南米と日本の状況の違いを考慮して、ラディカルな教会批判ではなく、垂直と水平の関係

を共に大切にする堅実な教会形成を目指している。示唆に富む箇所は枚挙にいとまがないが、そのごく一部を紹介したい。

副題である《その名はイエス・キリスト》は、マタイ25章31-46節の解説の部分にあるが、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人」を次のように解釈している。「ここで主イエスは貧しく、苦しみの中にある人々と一体となっておられます」「私たちがキリストと出会うのはまさにそうした人々を通してである、ということです」として、著者がブラジルで覚えた賛美歌を紹介する。「その名はイエス・キリスト 飢えに苦しめぬために叫んでいり 私たちは彼を見ながら通り過ぎる 時には教会に向かつて」。強烈な歌である。しかし、著者は単にイエスを貧しい人と同定しているのでもなければ、貧しい人のために尽くした人としてだけ評価しているのでもない。

その後、続くベタニアで香油を注がれた話(26章6-13節)で、イエスを油注がれた者メシア、すなわち救い主キリストと明示していることからそれは明らかである。さらに、その際の弟子たちの言葉「なぜ、こんな無駄遣いをするのか。高く売

って、貧しい人々に施すことができたのに」の解説では、「この言葉だけを取り出してみれば、間違っていない」「しかし主イエスは「そこに彼らの心がないことを見破っておられました」という。正しく見える言葉に潜む偽善であり、われわれに突き刺さる。「教会の中においても、正しい言葉を語りながら、時に意識的に、時に無意識のうちに、人を裁いていることがいかに多いことでしょう」という指摘に接すると、自分もまさにそうだと、思わずざるを得なくなる。

前(25章)の部分ではなく、後(26章)の部分で「解放の神学」という言葉が出てくるのは、一見意外に見えるが、実は著者の深い思いがここに示されているのではなからうか。この点は、本書をお読みくださってそれぞれ受け止めていただきたい。

言及されている政治的社会的問題についてはいろいろな考えがあり、「聖書の解釈に現代の問題を引きつけるべきでなく、聖書が本来語ろうとしていることに集中すべきだ」という批判

もあろうし、「聖書とこれらの諸問題の関係をもっと具体的に展開してほしい」という意見もありうる。その可否を判断する資格は私にはない。しかし著者は、日本のプロテスタント教会において、とかく対立的に捉えられがちな、福音伝道と社会問題へのまなざしという二つの課題に、真摯に架橋しようとされているのではないだろうか。

私自身は「聖書を生きていない」ことをこの書によって改めて痛切に知らされるとともに、主イエス・キリストに新たに出会うことによって生かされるよう、聖書を読み続けたいという気持ちで湧いてくる。それは本書が平易な解説書でありながら、説教集のような力強さを持っているからである。

(おおむら・ただふみ)日本基督教団三田教会会員
(四六判・二二八頁・本体一六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)



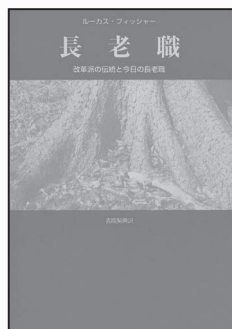
長老職

改革派の伝統と今日の長老職

ルーカス・フィッシャー

Lukas Vischer

吉岡契典*訳



神の言葉のもとで
教会を治める働き

A5判

定価【本体2,000＋税】円
ISBN978-4-86325-065-9



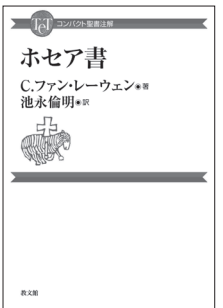
株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

神の厳しい裁きと深い愛
C・ファン・レーウエン著
池永倫明訳

コンパクト聖書注解
ホセア書



野木虔一

本書は、同じ「コンパクト聖書注解」と呼ばれているシリーズの『ヨハネの黙示録』や『エゼキエル書』（I・II）の訳者である池永倫明先生によって訳された。その労を多とし、喜びをしたい。

ホセア書が一章三章、四―十一章、一二―十四章の三つに分されることには異論はない。ただ一章三章の部分で、本書の一章―一二節、二章―一二節と、ヘブライ語本文一章―九節、二章―二五節とはズレがある。著者が一章三章の中に、預言者の「裁きの言葉」が度々「救いの預言」に変わることに注目し、神の裁きの判決が神の救いの預言で終わる形をとったからである。しかし、敢えて章節の変更が必要であろうか。

―一章三章で、神の命令を受けたホセアの結婚と三人の子供の誕生や命名という私的生活は、イスラエルの不実の現実と神の裁きや深い愛を象徴的に示している。ホセアの結婚についての議論は多々あるが、本書では現実にはホセアが経験した出来事と受けとめている。「再び」淫行を続ける妻を愛し、彼女を請け出せとの神の命令にも従う。そのことは、イスラエルの人々が

主なる神を求め、その慈しみに立ち帰る希望を示唆している。

四章一節から「この地には、誠実さも、慈しみも、神を知ることが決定的である。救い主である神の意志も戒めも知らない。」「主への畏敬」の欠落はまず神礼拝に現われる。ホセアの時代、混淆主義のバアル礼拝が人々の生活の中に深く食い込んでいた。しばしば主なる神を礼拝するという仮面のもとでバアルの神々が崇拝されたと本書は指摘する。告発から見えるホセアの戦いの主たるものはまず「カナンの影響に対する宗教的な戦い」であった。それは礼拝の場所や儀式や形式の問題ではなく、誰を、何のために礼拝するかという内実の問題であった。今日的なコンテキストで見れば、教会で主日毎にささげられている礼拝の質の問題であると思う。

そうした民に向けてホセアの語る使信の中心は何か。それは一見相反する神の厳しい裁きと深い愛である。本書は「ホセアにとって、民に対する神の勝利してやまぬ愛の使信こそ根源的なものである」（二〇頁）と言う。そのことを見事に表わ

しているのが一章八―一節の注解である。八節の訳をみると「エフライムよ、どうしてわたしがお前を見捨てたろうか。……わたしのうちでわたしの心は逆転し、わたしの同情は完全に立ち上がった」とある。ここでは民に対する神の思いの逆転が告げられる。民の不忠実と不従順に対する聖なる神の怒りは燃え上がる。神は怒りと愛の間で格闘する。そして、神の愛はご自身の怒りに勝るのである。

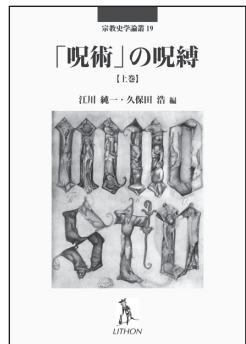
旧約の中で愛について最も深く語るのはホセアであり、神とイスラエルの民との関係において「愛」（ヘセド）という言葉が最初に用いたのもホセアであろう（二・一八「21」、四・一六・四、六、一〇・一二、一二・七、但し「慈しみ」と訳されているところが二箇所）。また、彼がこの「愛」を夫妻関係において見たことは、彼自身の結婚生活の体験と無関係ではない。スネイスによれば、「ヘセド」は「契約の愛」と呼ばれ、契約に基づく真実な愛であり、その関係を保持し、持続させるとこ

ろの力である。また、この「慈しみ・愛」が「誠実さ」や「神を知ること」と並んで用いられていることは見逃せない（四・一、六・六）。本書を概観してきて、指摘されていることではあるが、ホセア書と申命記の「愛」や「唯一の神礼拝」のための戦いはよく似ている。ホセアの混淆主義のバアル礼拝との戦いは、北の預言者グループを通してヨシヤ王の申命記改革と言われる礼拝集中化、純化の改革に継承されているように思えてくる。

（のぎ・けんいち 日本キリスト教会無任所教師）
（四六判・二三三頁・本体二七〇〇円＋税・教文館）



新刊



宗教史学論叢19

「呪術」の呪縛

【上巻】

江川純一・久保田 浩 編

●A5判上製 本体5,000円＋税

江川・久保田「呪術」概念再考に向けて／藤原聖子アメリカ宗教学における「呪術」概念／横田理博ウェーバーのいう「エントツァウベルンク」とは何か／木村敏明プロテスタント宣教師の見た「呪術」と現地社会／池澤 優中国における呪術に関する若干の考察／川瀬貴也近代朝鮮における「宗教」ならざるもの／堀江宗正サブカルチャーの魔術師たち／他8篇を収録。

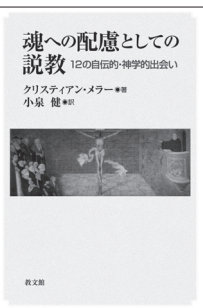
ISBN978-4-86376-042-4

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

〈出会い〉の説教
クリスティアン・メラ著
小泉 健訳

魂への配慮としての説教 12の自伝的・神学的出会い



川崎公平

既にいくつかの邦訳で知られるようになった、実践神学者クリスティアン・メラの説教論である。書名が興味深い。原題は『説教学的な裏階段』『裏階段』という言葉はあまり馴染みがないが、著者の「まえがき」がその意味を明らかにしている。「古典的な正面階段では閉ざされたままになっている、説教と説教論のためのいくつかの部屋を開くことができる」（二頁）。

その裏階段を、著者自身が出会ってきた二人の神学者たちを紹介しながら、われわれに見せてくれる。悪い意味での「教科書的な」説教論ではない。「古典的な正面階段」から見えてくる客観的・体系的な説教論ではなく、極めて主観的な、自伝的説教論である。それだけに、おもしろい。二人の神学者に対する著者の情念を感じるからである。

まったくの余談だが、われわれ自身も（特に説教者は）同じように「自伝的説教論」を何らかの形にしてみればよいと思う。必ずしも他人に読ませる必要はない。自分のために書く。今の自分を作っているのは、何と言っても〈出会い〉だからである。あの先生に出会ったから。あの書物に出会ったから。だから、今の私があんなに神を愛するようになった。

ら、今の私がある。皆そう言えるはずである。ただし、単なる自伝を書き連ねてもあまり意味はない。自分に与えられた〈出会い〉の意味を、なお神学的に考察してみることが肝要である。この書物がしていることは、そういうことである。

「そこでわたしが学んだことは、説教を説教にするのは、神の声であり、今日という時を告げることであり、聞くことだ、ということでした」（三頁）。これが本書の三部からなる構成となっている。「声の形成」としての説教、『時を告げる言葉』としての説教、『聞くこと』としての説教（三頁）である。この構成にも既に、著者の明確な説教理解が現れている。

第一部「声」では旧約学者フォン・ラート、マルティン・ルター、実践神学者ヘルチ、讃美歌詩人パウ・ゲアハルト、第二部「今日」では組織神学者イーヴァント、新約学者エルンスト・フックス、カール・バルト、ボンヘッファー、第三部「聞くこと」では説教学者ルドルフ・ボーレン、加藤常昭、ディアコニア学者（奉仕学者）ヘルバート・クリム、最後にキエルケゴールが紹介される。そこで展開される叙述は、単なる自伝

でもなければ、この神学者たちの説教論の紹介でもない。著者自身が、彼らとの出会いを通して、自分の説教論をどのように深めていったか、ということである。軽い気持ちで読み始めると、少し面食らうかもしれない。これは、メラ教授自身の「説教論」の書物なのである。読みこなすのに苦労するところもあるかもしれない。「訳者あとがき」を読むと、興味のある章から読むのもよいと言いが、たとえばこういう順序で読んでどうか、というアドヴァイスを得ることができる。

個人的な感想を言えば、私自身が最もおもしろく読んだのは、第二部のエルンスト・フックスの章である。著者の恩師でもあるフックスは、「テキストから、どうしても説教をしなければならぬ」という欲求が生まれてきて初めて、新約聖書テキストの解釈のための歴史的・批判的な方法は、その奉仕を果したものである」という発言によって、多くの誤解を引き起こしてしまっただけで、その誤解を解きつつ、聖書を読むとはどう

いうことか、説教するとはどういうことかを明らかにしていく著者の言葉には、熱がこもっている。聖書の言葉は、説教されつつあるものである。またそれが、第二部の「今日」という部分に収められていることにも、多くのことを考えさせられる。「今日」という言葉は、むしろイーヴァントから学んだものではないかと思うが、メラ教授の説教論のひとつの核にもなっている。神は、今日、お語りになりたいのである。最後に、たいへん読みやすい翻訳で、良書をわれわれに紹介してくださった訳者の労苦にも、心から感謝したい。

（かわさき・こうへい）日本基督教団鎌倉雪ノ下教会牧師
（四六判・三三六頁・本体二六〇〇円＋税・教文館）

聖公会出版 ——新刊案内——

心をとめて 森を歩く

写真とこぼし ●小西貴士

森に心をとめてきた人（写真家 小西貴士）と子どもに心をとめてきた人（幼児教育研究者 河邊貴子）。ふたりが織りなす珠玉のフォト&エッセイ集。自然のいのちのなかに、小さな神さまの仕事を見つけることができる大きな感動を秘めた小さな本。

新しい創造

著 ●太田道子

著者は聖書を読むための基本事項を分かりやすく説明し、神と人間の関係を明確にする。それはクリスチャンのみならず教会の外にいる人々にも語りかけるものである。そして聖書を読むことは人が現実の正面から向き合い、人間と社会を癒すための力となることを示す。多くの人が待望していた碩学太田道子の久々の著作。

現代思想における

イエス・キリスト

Jesus Christ in Modern Thought
著 ●J.M. マクコリー

著者ジョン・マクコリー（1919-2007）は若年期にブルトマンを通してハイデガーの存在論哲学に大きな関心を持った。このマクコリーのキリスト論が本書である。キリスト論総論を学ぶための基本的な文献の翻訳として注目される。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nsk-bookshop@company.email.ne.jp

学校教育から日本キリスト教史を読み解く
大西晴樹著

キリスト教学校教育史話

宣教師の種蒔きから成長した教育共同体



塩野和夫

プロテスタント系キリスト教学校史を扱う本書は、先行研究と関連史料を踏まえ、キリスト教史研究と社会科学的方法を駆使してテーマ毎に論じた、読みごたえのある全七章となっている。当初発表した様式の講演（二章・三章・五章・六章）、論文（一章・四章）・分担執筆（七章）から生じた体裁の違いはあるが、キリスト教教育の明日を切り拓こうとする意欲に満ちている。

テーマによって三区に分し、それぞれの内容を概観する。「第一章『ビュリタン』ヘボン——その光と影」と「第二章アメリカ長老・改革教会宣教師ヘボン、ブラウン、フルベッキの功績——W・E・グリフィスによる伝記から」は来日宣教師を扱い、サブタイトルの「宣教師の種蒔き」にあたる。第二章は明治学院の「学祖」とされる三人それぞれの明治初期日本への貢献を扱う。それに対して、一章は「聖人」ヘボンを問い、丹念に史料を調査して「人間」ヘボンを読み解いていく。その際に筆者は史料の語りかけを尊重してヘボンの内面には立ち入らない。むしろ、読者との対話に委ねている。

キリスト教学校をテーマとするのが、「第三章 二〇世紀初葉の日本基督教教会と明治学院」「第五章 神社参拝とキリスト教学校」「第六章『キリスト教学校教育論』論争史」である。三章は二〇世紀初葉のキリスト教学校を、植村正久、賀川豊彦、朝鮮伝道を取り上げながら、日本基督教教会との関わりから掘り下げていく。五章は一五年戦争期のキリスト教学校を神社参拝問題に焦点をおき、カトリック学校や台湾・朝鮮のキリスト教学校も取り上げて論じている。六章はキリスト教教育の可能性に期待しながら、「明治・大正期」では新島襄、井深梶之助、D・B・シュネーダー、新渡戸稲造の教育論を紹介する。「戦後期（一九九〇年まで）」からは松村克己、小林信雄、関田寛雄、赤城泰、「現代（一九九〇年から）」からは中山弘正、倉松功、松川成夫、山田耕太を取り上げ、彼らの論争を紹介している。

「第四章 キリスト教大学設立運動と教育同盟」と「第七章 教育同盟の一〇〇年、そして未来に向けての五つの提言」はキリスト教学校教育同盟（一九一〇年の設立時は「基督教教育同

盟会」）を扱う。第四章は設立当時の教育同盟を訓令第十二号及びキリスト教大学設立運動との関わりから分析する。それに対して、七章は教育同盟の一〇〇年を時代状況の推移を踏まえて概観した上で、「(1)キリスト教学校教育の理念の明確化と一致」「(2)エキュメニズムによる発展」「(3)キリスト教による人間教育の推進」「(4)キリスト教学校教育の担い手の育成」「(5)組織改革の必要性——総会改革を例に」からなる「未来に向けての五つの提言」を表明し、本書の結びとしている。

歴史研究の立場から本書の課題を述べておく。一章と二章の来日宣教師研究に関しては総体性と個性性をめぐる課題がある。史料を駆使して「人間」ヘボンを分析しているが、さらに共感性を用いて宣教師の内面を描写できれば、緊張感が増し叙述内容も豊かになったと思われる。キリスト教学校を扱う三章・五章・六章には賀川豊彦のわずかな例を除いて学生が登場しない。彼らへの教育を目的とするキリスト教学校の現場は、学生不在

でふさわしく描き出すことができるのだろうか。四章と七章の教育同盟では統一性と多様性をめぐる課題がある。いずれにもバランスを保った叙述が求められるが、本書ではいささか統一性に重点がおかれているように思われる。

タイトルの末尾にある「話」は、論じる対象の広がりや豊かさを示している。それらは直接的にはキリスト教学校教育関係者に向けられているが、日本キリスト教史を読み解く貴重な手がかりも随所に秘めている。多くの読者が期待される所以である。

（しおの・かずお〓西南学院大学教授）
（四六判・二三三頁・本体二六〇〇円＋税・教文館）

グローバルな視点で宣教を考える！ 関西学院大学神学部ブックレット⑦

宣教における連帯と対話

関西学院大学神学部設立125周年記念 第48回神学セミナー

二〇四年一月に行われた第48回関西学院大学神学部神学セミナーの講演と礼拝を収録。今回の神学セミナーは特に神学部設立125周年記念行事の環として

グローバルな広がりて今日の宣教伝道について考察。

■A5判 150頁 1500円

第2刷 好評発売中!

大切な人へのプレゼントに！ 天路歷程 天の都を目ざして

ジョアン・バニヤン 作
メアリー・ゴドルフ・フレイ 再話
ロバート・ローソン 画

聖書に次ぎ、世界で最も多く読まれている旅物語。世界中で読まれてきた不朽の名作『天路歷程』がさらに読みやすくりました！



キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格に税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

■B5判 116頁 1500円

大神学者の思想の現代的意義を平易に説く
喜田川 信著

バルト神学の真髓



坂本 誠

著者は九二歳になられるが、この度一般の方々にもわかりやすいバルト神学の紹介を書かれた。筆者の神学に対する情熱には敬服するものであるが、今なお真摯な形で深化中である。

筆者はバルト神学から出発し、一時はモルトマン等に惹かれるが、最終的にバルトが現代に向けていかなるメッセージを持っているかを問いつつ本書を著された。

著者は、本書で、バルト神学の中心である「イエスは主である」という信仰告白を根本に据えて、バルトがいかにその神学を展開したのかを解説していく。

本書は四章からなり、第一章は「バルトは観念的で社会性を持ち得ないか」というタイトルで、バルトに対する一般的誤解を丁寧に解いていく意欲的な章になっている。教理史をたどりつつアウグスチヌスからバルトまで丁寧に神学理解の経過を辿る。教団（教会）は神に語りかけられる存在であり、イエス・キリストの語りかけが出来事である以上、教団の存在も出来事であり、この世と歴史の中に働く力を「神の摂理」と「人間の混乱」とし、そこにこそ教会の使命があることを解説し、バル

トの神学が健全な社会性を持っていることを力説する。

第二章は「ポール・リクールとカール・バルト——その決定的相違」と題してリクールを丁寧に紹介しつつ、バルトの独自性を強調する。テキストを読むことは解釈することであるとし、解釈を理性でもなく意志でもなく想像力・決断としたリクールに対して、これは十字架の言語化を意味し、バルト神学を否定することになることを指摘する。バルトは、時代的な背景に聖書を近づけ、啓示をその様に方向づける試みを否定する。その意味でバルトの「イエスは主である」は一切の人間の試みへの否であるとする。しかし、旧約の啓示、語りかけに多様性があるという指摘においてリクールは、バルトの旧約理解を補完する可能性があるとする。

第三章の「カール・バルトの旧約観と福音理解」では、「神の選び」理解を中心に据え、選びの思想を丁寧に解説していく。特に「選びにおける光と影」の思想は非常に興味深く読ませていただいた。神は契約の実体であり、そこにバルト神学の中心がある。そこには選ばれた者（光）と捨てられた者（影）が存

在するが、両者は相互補完的であり、そこにおいて教会の使命が存在する。特に聖書理解を交えながら解説していく筆者の姿勢は牧会者として講壇から説教し続けた結果である。

結論の後、今までの思想を倫理的な視点で丁寧に問い直す。

第四章のタイトルは「私たちはどのように生きており、また生きべきか」と題して、人間とは何かという問いに始まり現代人のかかえる様々な問題に切り込んでいく。バルト神学の基礎を、契約の歴史が創造の歴史の内的根拠であり、契約が創造に先立つと主張し、内神的三一論と経綸的三一論が同一であることに置く。人は十字架においてのみ神と出会うことができ、神の御業、神の自由な愛の本質から生ずる永遠の決断、誠実さが全てであるとする。この神中心の神学をバルト神学の基礎とする。

そこから現代的な倫理問題（結婚、自殺、安楽死、妊娠、中絶、死刑と戦争等）を論考していくのであるが、学はされるこ

とが多い。ただ、性に関する項目では、現代の理解において多くの研究があるので、今後そのような研究も参考にされると、さらに幅のある論考が為されるのではないかと感じた。

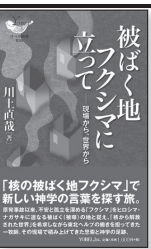
最後にバルトのユーモアに触れて本書は終わるが、アブラハム九十九歳の笑いが、神の約束への謙虚な受容を意味すると書かれてあり、まさに九二歳の著者の生きる姿勢と同じである。ことを評者は感じて感動を覚えた。本書が神学校のバルト入門の書として用いられることを願ってやまない。

東北ヘルプ事務局長
川上直哉著

被ばく地フクシマに
立つて

被ばく地フクシマに
立つて

現場から、世界から



「核の被ばく地フクシマ」で新しい神学の言葉を探す旅。原発事故以来、不安と孤立を深める「フクシマ」をヒロシマ・ナガサキに連なる被ばく地と捉え、「核から解放された世界」を希求しながら、東北ヘルプの働きを担ってきた「牧師」その現場で積み上げてきた思索と神学の足跡。

●ヨベル新書030二七六頁・一、〇〇〇円十税

好評既刊の本

宗藤尚三著 ヨベル新書 022

核時代における人間の責任
ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために

川上直哉師・評 学ぶこと多く、読後の印象は深い。「政治においては服従は支持と同じである」という宗藤さんの言葉は、今、厳しく響く。心して読み、深く沈黙を促される書物である。再版●新書判・176頁・1,000円＋税

A. グリューン著 村椿・松田訳

私は戦争のない世界を望む

岩本達徳師・評 人を戦争に駆り立てる心理を形成する年少期の体験や親による支配、成功神話や支配欲などについての洞察を深め、それらを克服する力は「共感すること」〈平和への夢を持ち続けること〉だと説く。推薦いたします。●変型 46判・900円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp

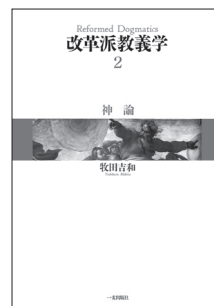
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

＊自費出版の専門出版社＊資料・星

伝統形成への強い責任感
牧田吉和著

神論

改革派教義学・第2巻



神代真砂実

従来、神学の基礎資料（あるいは資源）は三つ、ないしは四つあると言われてきた。三つの場合に挙げられるのは、聖書・伝統・経験（あるいは状況）であり、四つの場合には、これに理性が加えられる。そして、過去数十年間にわたって、神学の世界で特に力を振るってきたのは、これらの内の経験であったと言つてよいように思う。その一方で、伝統に学ぶということについては必ずしも充分ではなかったのではなからうか。

そのような神学の状況が健全なものとは言えないということ、本書の著者は強く意識している。「あとがき」の中で、こう著者は述べている。「日本の神学はあまりにも個人的作業にとどまりすぎているように思う。歴史意識が稀薄であり、伝統形成への責任感が弱いように思う」（三四七頁）。ここでは「日本の神学」と言われているが、日本に限定される話ではないであろう。むしろ、先に述べたように、神学の世界の一般的傾向として、このことが指摘されてもおかしくないのである。

これに対して、著者の考える神学とは、「教會的遺産を自覺的に受け継ぎ、時には批判的に修正・補足し、さらに展開・深

化させ、教會の神学としてより豊かなものへと形成し、次世代に手渡す」（同）課題を持つものということになる。そして、今回の『改革派教義学・第2巻』は、まさに、その言葉の実践を試みたものとなっているのである。このシリーズ全体の性格ということでもあらう。

さて、今回の第2巻は「神論」と題されている。実際には、神論から創造論（さらに、その中の摂理論）までを扱っている。神論に創造論までが含まれているという事実は、最初に本書を手にしたときに少しばかり驚かされた。これについては、もちろん著者も意識しており、はじめに「神論の取り扱い領域」ということで論じている（一五頁以下）。それによれば、神自身について扱う議論と、その行為と業について扱う議論とでもって、伝統的に神学、つまり、神についての言葉（あるいは語り）は捉えられてきたのであって、そのことを踏まえて、こうした構成になっているということである。A・E・マクグラスの『キリスト教神学入門』においても、これに似た扱いが見出されるので、それほど特殊というわけではないが、評者は、こ

のやり方に必ずしも納得がいっているわけではない。摂理論までで終えなければならぬ必然性が、よくわからないし、充當によって父なる神に創造の業を帰するから、ということであるとすれば、キリスト教的神認識の持つ固有性を、特に神の名や三位一体に求めて論じていることの意義が弱められてしまうように思うからである。

こうした疑問を別とすれば、ここには私たちが伝統（聖書と伝統）と言った方があさわしいかもしれないが）から学んでおく必要のある事柄が簡明なかたちで提示されており、たいへん勉強になる。さらに言えば、はじめから日本語で書かれたものであるだけに、どうしても翻訳ものに付きまとう、文章の生硬さという問題がないのも嬉しいことである。

伝統を継承し、伝統批判も伝統を深く参照しながら、というのが本書の姿勢であるので、議論に派手さはない。それでも、先に触れた、神の名についての議論（三九頁以下）の他、予定

と伝道の関係についての議論（二二九頁以下）、墮罪前予定説の擁護（二二九頁以下）、奇跡論（三二五頁以下）などは興味深く読むことが出来た。

もしも、ここに欠けているものがあるとすれば、それは現代の思想的課題との取り組みということではないだろうか。もちろん、日本という文脈への意識は折に触れて示されているので、そうした関心がないわけではない。とはいえ、伝統を継承しながら、しかしまた、この時代の思想的状況を踏まえながら、受け継いだものを批判しながら語り直すということもまた、組織神学の大きな課題である以上、その点での物足りなさを感じるのである。しかし、逆に言えば、それは、本書から学びながら神学に携わる者の課題だということなのかもしれない。

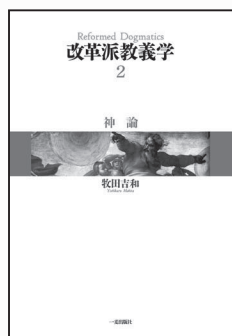
（こつじろ・まさみ 東京神学大学教授（組織神学）
（A5判・三五〇頁・本体四五〇〇円＋税・一麦出版社）



神論

〈改革派教義学〉第2巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



改革派神学は神中心的神学である。
神中心的神学にとって、
「神論」こそ教理の中の教理である。
教會的实践を視野におきつつ、
「神論」の意味を問う。

A5判・上製・函入
定価【本体4,500＋税】円
ISBN978-4-86325-047-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

時を超えるみことは
土岐健治著

ヨナのしるし

旧約聖書と新約聖書を結ぶもの



荒川博行

旧約新約を個別に説明する本は多くあるが、両者を貫く観点から書かれた書物にはなかなか出合えない。この『ヨナのしるし』は、旧約と新約が分かれていない一貫した思想の展開であることを示してくれる一冊である。この一貫性は原文に直接あたることで検証され、それは聖書を忍耐強く原文で読んでいた小々な群れにとつては大きな励ましを感じる。わざわざ苦労して原文で読むこと、つまり新約に向けて旧約原典、LXX、外典・偽典、ギリシア古典、新約テキストを相互比較するというこの伝統的地道な手法は、言語のささやきを聞き分けてひっそり隠れているみことばを見つける喜びだからだ。

さて「序章」ではこの意識と手法に従って「ヨナのしるし」の探求が二つの手から始まる。一つは「預言者ヨナのしるし」のほかに、しるしは与えられない（マタイ二二38—42）という福音からで、この「しるし」の意味は何かである。続いて列王記下一四章にある預言者アミタイの子、ヨナとの関連を取り上げる。預言者ヨナが現れたヤロブアム二世時代に、悪を行い改心しないヤロブアムが「レボ・ハマトからアラバの海ま

でイスラエルの領域を回復（列王下一四26）」できるのか不自然だという疑問である。ところがこの矛盾に見える発想こそがヨナ書の下敷きである「パロディー」の「しるし」であることを示そうというのだ。

この問題提起を受けてヨナ書注解が始まる。ニネヴェに滅びを告げよという神の命令から海へ逃れる一章を検証し、「ヨナ書ではヨナは一度も悔い改めていない（七九頁）」ことを明らかにして、みことばに聞き従わない預言者という事態を掘り起こす。その一方で、ヨナ書がイスラエル最大の預言者エリヤを意識していることも同時に指摘される。例えば、ヨナ三二に「主の言葉が再びヨナに臨んだ」とあるが、「再び」を取り出して、この語がエリヤ物語（列王上一九7）に登場し、次いでLXXギリシア語に翻訳されて（*ek deuteron*）、新約の重要箇所（ゲッセマネの祈り、ペトロの否認、ヤッファで幻を見るなど）に現れることを確認する。「ヨナ書がエリヤ物語を意識しているように、イエス物語もエリヤとヨナ（とエレミヤ）の姿を意識して（二二五頁）」いる関連性が述べられている。

三章ではニネヴェに赴いて改心を呼びかけるヨナを分析する。エレミヤをはじめとする預言者たちは悔い改めよと苦心惨憺するはずなのに、悪を行うニネヴェの王と市民はいともたやすく、しかも悔い改めていないヨナに聞き従ったことをどう説明できるのか。それは正統預言者たちに対する異議申し立て、つまり不信仰者が信仰を示す「パロディー」ではないかと論じる。そして四章で「神のみ心を全く理解していない……にもかかわらずヨナが異邦人への預言者宣教師として大成功を収めた」ことは、預言者たちに対して「ユーモアとアイロニーを湛えたパロディーのかたちで描いたのである。これこそが福音書の『ヨナのしるし』であろう（一九四頁）」と述べている。最終章の「ヨナと新約聖書」で、神は問いかけるがヨナは沈黙すること、物語が閉じられる一方、受難ではイエスの問いかけに神が沈黙していることを挙げて、これも「パロディー」としてヨナ書が福音書で受け取られていると指摘している。

「パロディー」という「まじめふざけ」は、聖書の随所に見つけられよう。例えば、イスラエルは立派な行いの民では決してなく反逆の「かたくなな民」であるし（申命九5—6）、誰よりも律法に熱心だった男が律法の終わりを宣教する（フィリピ三6—9）。それは単一で平板な人間理解を常に戒める聖書の本質ではないだろうか。するとわざわざ聖書の中央部に配置されたヨナ書が優等生の書物たちに向かって暴れているように見えてくる。聖典化の過程でヨナはどう評価されたのだろうか。また原文の相互比較も一方で常に限界を背負っているように思われる。ヘブライ語は固有のアクセントの区切りや強弱を使つて意味のニュアンスを作り出すが、ギリシア語訳はどこまで受け止められるのだろうか。最後に論述が原文分析で構成されているので、本文表記がヘブライ語とギリシア語でなかったことが残念である。（あらかわ・ひろゆき「カトリック梅田教会司祭」）

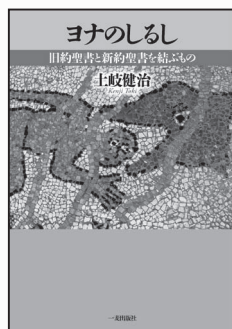
（四六判・二四七頁・本体二四〇〇円・一麦出版社）



ヨナのしるし

旧約聖書と新約聖書を結ぶもの

土岐健治
Kenji Toki



聖書理解の
パラダイムが変わる！

ヨナ書は、
先行する旧約聖書諸文書の
パロディーである！

その特徴の一つは「まじめふざけ」。

四六判
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN 978-4-86325-077-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

聖書を「神の物語」と捕らえ、私共の人生の四季折々に紹介してくださる御方として紹介！

大頭眞一 著

聖書はさらに物語る 一年12回で聖書を読む本



工藤信夫

出版業界の不況・不振が伝えられる中、キリスト教界の出版がいつ途切れるのだろうかと思念している人々は決して少なくないだろうが、幸いなことに関係者の必死な努力によって、聖書にまつわるかなりの数の本が出版されている。しかしその多くは出ては版を重ねることもなく消えていく。この現象は果たして何を意味するのだろうか。果たしてその内容は真に人々の心に届いているのだろうか。出版社は読者のニーズに responding いるのだろうか。誰もが聖書に興味を持っているだろうに。

この本の冒頭に面白い一文が載っている。

『旧約・新約』聖書を知っていますか(新潮文庫)を書いた小説家阿刀田高氏が出版の動機を「クリスチャンが書いた聖書の本はたいていおもしろくない。聖書を読み込み、信者をふやそうという下心に満ちている。私たちが知りたいというのは聖書がどういう書物かという知識なのだ(以下略)」

おもしろい指摘である。

というのも人間はいくら正しい知識が提供されて正論を説かれても、そのように生き得ない存在であるし、むしろ知識や正

論が人を高慢にし優越感や裁き心に導くことさえあるからである。

いや、時にそれは律法となつて人を開放するどころか、人を苦しめることさえあるからである。

四〇代、約十年にわたってP・トゥルニエを読む会を主催してみておもしろいことに気づいた。

毎回レポート提出が課せられるこの学び会で参加者が一番多く反応したテキストは『生の冒険』(ヨルダン社)であったことである。

この会の参加者は私共と与えられた生が神の冒険であるというトゥルニエの視点に驚き、かつ元氣を得たのである。

もしかしたらこれまでキリスト教界の多くの出版物は人を教え導く律法主義的なニュアンスが多すぎ、多様性に満ちた人間というものの、また人生というものの躍動を平坦化・形式化してきたのではないだろうか。

この点、本書は聖書を「神の物語」と捉えて、この関係性の中で人は生き得ることを意図していることは興味深いことであ

る。これは最近様々な立場の人が「聖書物語」を様々な角度から書き始めている事実と照らし合わせると、聖書に記された出来事は今の私共の人生に介入し、見えざる道連れ、その伴走者・同労者であると主張したP・トゥルニエの『人生の四季』(二四九頁・ヨルダン社)と符合しておもしろい視点である。

聖書を「神の物語」と捕らえ、私共の人生の四季折々に、私共に語りかけ、私共の人生に介入してくださる御方、として紹介してくださった大頭眞一氏の御芳に深く敬意を表す次第である。

本書の活用に関しておもしろい実例を一つ紹介してみたいと思う。

大手企業を定年退職された方が夜間の神学校に学び、聖書を一般の人々に伝えたいと思ったものの、それをどういう形にしたらいいものかと模索しておられたが、その方はネットで本書の副題である「一年12回で聖書を読む本」を探り当て、市の公

民館の一室を借りることにした。するとおもしろいことに、キリスト教に興味がありながら教会には足を運べなかった方々が、初年度で四、五人やってきたという。

色々考えさせられるエピソードである。

もしかしたら人々は今日でも恐らく世界中のベストセラーである聖書を知りたい、読みたいと願っているのかもしれない。にもかかわらず、これまでのキリスト教、はなにか人々のニーズに応えかねているのではないだろうか。これは恐らく見えざるキリスト教、またキリスト教界の大きな課題の一つに違いない。

大頭氏の今後に期待する次第である。

(くどう・のぶお) 精神科医・平安女学院名誉教授
(A5判・一〇四頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル)

日本イエス・キリスト教団
明野リスト教会校尉

大頭眞一 著

*第2弾 絶賛発売中！

聖書はさらに物語る 一年12回で聖書を読む本

聖書の物語があなたを招く 平野克己 師 (総務院全日本福音宣教師会 日本)

◆大頭眞一牧師が『聖書は物語る』に続けて、『聖書はさらに物語る』を刊行しました。この本の特徴は、「聖書に何が記されているか」という知識をいかに与えてくれるところにあります。……聖書全体を見通しながら、聖書への知識を私たちに提供してくれるのです。

●A5判・一〇四頁・一〇〇円＋税

聖書は物語る 一年12回で聖書を読む本

正木牧人師・評 (神戸ルーテル神学校校長)
◆本書の読みやすさは聖書を一続きの物語として捕らえ、一貫する世界観を提示していることにある。『本のひろば』評より) 3版準備中！

A5判・112頁・1,100円＋税

好評既刊の本

渡辺善太著作選 新書判・1,800円＋税

- ① 偽善者を出す処—偽善者は教会の必然的現象—
- ② 現実教会の福音的認識、他
- ③ 聖書論—聖書正典論 1/1
- ④ 聖書論—聖書正典論 2/1
- ⑤ 聖書的説教とは？
- ⑥ わかって、わからないキリスト教

齋藤孝志著 新書判・各1,000円＋税
道・真理・命 全3巻完結！
ヨハネによる福音書に徹して聴く

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

本屋さんを選んだ お勧めの本

教文館キリスト教書部 加川昌宏

『天路歷程』
ジョン・バニヤン著
ロバート・ローソン画



1,500円+税
キリスト新聞社

一点目にお勧めするのは、二〇一四年十二月刊行のキリスト新聞社刊『天路歷程——天の都を目ざして』です。聖書に次ぎに多く読まれている不朽の名作として長年、読者に親しまれてきました。主人公クリスチャンが、数々の困難を乗り越え天の都を目指す姿は、信仰者として歩む上での大きな道標となってくれるはずです。以前「すぐ書房」から刊行され絶版となっていたものですが、装いも新たに登場しました。お子様から大人まで幅広い年齢層の方々にお読みいただけたらと思います。プレゼントとしても大変お勧めです。

『レクラム版
聖書人名小
辞典』
ハンス・シュモルト
高島市子訳



2,400円+税
創元社

二点目は、二〇一四年九月、創元社より刊行された『レクラム版聖書人名小辞典』です。教養主義の香り高いドイツのレクラム文庫。その定評ある辞典を新共同訳に準拠し、五〇音順に並び替えられた一冊です。人物名見出し二〇三六項目、登場人物数約三五〇〇。網羅的にして、コンパクトな使える辞典です。聖書の学びの傍らに是非。

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目5-1
TEL: 03-3566-1848
FAX: 03-3566-1288
E-Mail: xbooks@kyobunkwan.co.jp
URL: <http://www.kyobunkwan.co.jp>
ネット通販室イーショップ
URL: <http://shop-kyobunkwan.com/>

キリスト教書ハレルヤ 山本正明

『キリスト教と
ローマ帝国』
ロドニー・スターク著
穂田信子訳



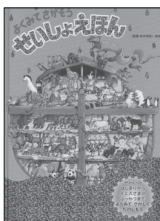
3,200円+税
新教出版社

「キリスト教は、実際どのように広まっていったのか？」この問いは信徒数が人口の1%に過ぎず、更なる減少を危惧されている私たち日本のクリスチャンにとって、常に頭をよぎる問いであると思います。海外のミッシンが、懸命に宣教に励んでも1%の壁を破れなかった状況を、これからの教会はどうしていけばいいのだろうか。その一つの回答が本書『キリスト教とローマ帝国——小さなメシア運動が帝国に広がった理由』にはあります。

後代の教会史家が「奇跡」と形容した、隣人愛によるキリスト教徒の交わりがもたらした、社会的な分析による「奇跡ではない」キリスト教の広まった過程が示されています。教会とは、その共同体の愛の交わりによって高い「生き残り」の力を発揮したがゆえに、ローマ帝国においても広まったのです。ただ教会の人数を増やせばいいのではなく、「隣人愛の共同体」としての教会の歴史的意義と可能性を見直す視点を本書は与えてくれます。

『よくみてさがそう
せいしよえほん』
絵・ギル・ガイル

文・日本聖書協会出版部



1,400円+税
日本聖書協会

本書は、聖書の有名な場面の中にちりばめられた人やものをじっくりと見て、探して見つけ出す絵本です。今から三〇年近く前にイギリスで『ウォーリーを探せ！』が発売されてから、このジャンルのものは継続的に人気があり、本書はその聖書版といってもよいでしょう。原題は、「Look and Find Bible」というもので、いくつかのシリーズが出ております。

キリスト教において「絵を見る」という行為は、ヨーロッパにおけるキリスト教美術史を見てもわかる通り、「キリスト教的世界観を感じる」ために欠かせない伝道の一要素でした。現代の私たちは、じっくりと絵に見入る機会というものが少なくなっております。見るということは、自分の感覚を信じて絵画の世界に没入し、その世界を体感するために必要なことです。教会の子どもたちが聖書の世界を体験していくために、本書はよき入門書となるでしょう。

キリスト教書ハレルヤ

〒862-0971 熊本市中央区大江4-20-23
TEL: 066-372-3503 (FAX同)
E-Mail: k-halerya@bible.or.jp

既刊案内 (2015年2月～3月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
一教に関するルーテル＝ローマ・カトリック委員会 ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会	争 い か ら 交 わ り ー2017年に宗教改革を共に記念するルーテル教会とカトリック教会	B 6	220	1,200	教 文 館	2 / 15
森 清	自分らしい最期を生きる ーセルフ・スピリチュアルケア入門	B 6	180	1,300	〃	2 / 20
E. シュレーラー 著 上村静、大庭昭博、小河陽訳	イエス・キリスト 時 代のユダヤ民族史 IV	A 5	374	8,500	〃	2 / 20
喜 田 川 信	バルト神学の真髄	四六	172	1,600	〃	2 / 20
大 西 晴 樹	キリスト教学校教育史話 ー宣教師の種蒔きから成長した教育共同体	四六	222	2,600	〃	2 / 20
大 住 雄 一	神の目前に立つて心 ー十戒の心	四六	232	2,500	〃	2 / 20
松 本 敏 之	マタイ福音書を読もう3 ーその名はイエス・キリスト	四六	218	1,600	日本キリスト 日教本団出版局	2 / 10
井上洋治 著 山根道公 解説・解説	井上洋治 著作 選集 5 ー遺稿集「南無アツバ」の祈り	A 5	248	2,500	〃	2 / 20
飯靖子／志村拓生演奏	CD版 讃美歌21による礼拝用オルガン曲集ー第5巻 礼 拝 の 時 と 教 会 暦 2 レント・イースター・ペンテコステ	C D	38曲	1,800	〃	2 / 20
金香 鎮 虎 人 著 訳	市 民 K 教 会 を 出 る ー韓国プロテスタントの成功と失敗、欲望の社会学	A5変	264	2,400	新 教 出 版 社	2 / 25
藤 井 あ け み	パパやママががんになったら ーチャイルド・ライフの現場から	B6変	160	1,500	〃	2 / 28
茂牧人、西谷幸介編	21世紀の信と知を知るために ーキリスト教大学の学問論	A 5	384	5,000	〃	2 / 28
山 口 勝 政	キリスト教とは何か？ ーヨハネ書簡に徹して聴く	新書	240	1,000	ヨ ベ ル	2 / 10
大 頭 真 一	聖書はさらに物語る ー一年12回に聖書を読む本	A 5	104	1,100	〃	2 / 20
渡 辺 聡	医者となぐともうつと引きこもりから生還できる理由 ー東京バプテスト教会のダイナミズム3	新書	216	1,000	〃	2 / 20
小西貴士・写真文 河 邊 貴 子	心をとめて 森を歩く	四六	104	1,800	聖 公 会 出 版	2 / 1
土 岐 健 治	ヨ ナ の し る し ー旧約聖書と新約聖書を結ぶもの	四六	247	2,400	一 麦 出 版 社	2 / 10
H.バルツ、G.シュナイダー編 荒井献、H. J. マルクス監修	ギリシア語 新約聖書釈義事典 [縮刷版]	A 5	I : 546 II : 646 III : 602	63,000	教 文 館	3 / 10
大 貫 隆	真理は「ガラタ」の中に ー自立する君へ	B 6	188	1,900	〃	3 / 30
G.シュテンベルガー 著 A.ルスターホルツ、野口崇子訳	ユ ダ ヤ 教 化 ー歴史・信仰・文化	四六	226	2,100	〃	3 / 15
藤 山 修	イエスとの実存的出会い	四六	228	1,600	〃	3 / 30
Yasuko Meguro	Build up, Build up, Prepare the Road! ーThe Life of Miss Thomasine Allen	四六	口絵16 +268	2,300	〃	3 / 3
C.ステイット 著 関川泰寛、田中従子訳	古代キリスト教と哲学	A 5	324	3,800	〃	3 / 31
R. D. ソレル 著 金 田 俊 郎 著 訳	アッシジのフランチェスコと自然 ー自然環境に対する西洋キリスト教的態度の伝説と革新	四六	340	2,800	〃	3 / 31
片 山 は る ひ	ひかりをにかけて 永井隆 ー原爆の荒野から世界に「平和を」	A 5	130	1,200	日本キリスト 日教本団出版局	3 / 10
平斎 山 正 雄 監 修 藤 山 紀 雄	自死遺族支援と自殺予防 ーキリスト教の視点から	四六	240	1,800	〃	3 / 16
中 道 基 夫	天 国 の 再 会 ー日本におけるキリスト教葬儀式文のインカルチュレーション	A 5	266	3,600	〃	3 / 20
W.ブルッゲマン 著 小友聡、左近豊監訳	旧約聖書神学用語辞典 ー響き合う信仰	A 5	530	6,200	〃	3 / 20
宮 本 久 雄、武 田 な ほ み 編 著	希望に照らされて ー深き淵よ	四六	290	2,800	〃	3 / 25
ジョナサン・エドワーズ 著 森本あんり監修・大久保正健訳	原 ー ジョナサン・エドワーズ 選集3	A 5	440	7,000	新 教 出 版 社	3 / 31
関 谷 直 人	牧 会 の 羅 針 盤 ーメンタルヘルスの視点から	四六	168	1,800	キリスト新聞社	3 / 20
八 木 哲 郎	19世紀の聖人 ハドソン・テラーとその時代	A 5	370	2,300	〃	3 / 25
東洋英和女学院大学 死 生 学 研 究 所 編	死 後 世 界 と 死 生 観 ー死 生 学 年 報 2015	A 5	288	2,500	リ ト ン	3 / 31
江川純一、久保田浩編	「呪術」の呪縛「上巻」 ー宗教史学論叢19	A 5	472	5,000	〃	3 / 31
関 田 寛 雄	あなただどこにいるのか？ ー関田寛雄講話集	四六	220	2,200	一 麦 出 版 社	3 / 10

書店名	郵便番号	住 所	電 話	フ ァ ッ ク ス	URL	メー ル	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-136 敷島センター・イマフ	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区錦2-2 千葉クリスチャンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		krisutokyoushotenhanne@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldracs/dbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kiJordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net./	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日 日 販 営 業 部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2015年6月号

特集 教会と性

多様化する性のありかた
と性規範。私たちは性を祝福されたもの
として受けとめるためにどうすべきか。

寄稿者 山口里子、勝村弘也、榎本てる子、
大嶋果織、吉田 新、上野玲奈

好評連載

レヴィナスの時間論（内田樹、宣教学
事始め（来住英俊）、Christian Icon（八木美
穂子）、こころの履歴書（佐藤優）、詩篇の思想
と信仰（月本昭男）、新約釈義（青野太潮）他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

編集室から

三月、早稲田のキリスト教会館で開催された日本キリスト教協議会（NCC）教育部主催「神学校新卒者エキュメニズム研修会」に出席した。今春、各教派の神学校を卒業し教会に赴任される新教職者十三名が紹介され盛会となった。午前中の講演が終わり、一同で昼食を取りながら懇親のひと時を持った。その時、一人の老練な牧師が起ち上がり、新教職者に向かって「皆さん、名刺は作りましたか？ 人に会ったら名刺と週報を渡すですよ」と語りかけた。不意をつかれてしまった。もちろん名刺にはない。週報にある。教会の週報は最も身近な伝道文書であった。そこには教会のしていることが集約されている。教会自身の名刺といっても過言ではない。文書伝道に携わりながらそのことに気づかなかった自分の不明を恥じた。

二〇年位前まで、当キリスト教文書センターに、いくつかの教会から「教会史」が寄贈されていた。その中には、昔のガリ

キリスト教とローマ帝国

小さなメシア運動が帝国に広がった理由

R・スターク著／穂田信子訳

話題！ 朝日、毎日で書評



宗教社会学的手法を通して見出された、初代教会のネットワーク力を論証。

本体3200円

版刷り「教会報」や「週報」が所収されているものもある。読み返してみるとすこぶる面白い。まずガリ版刷りの挿絵がよい。どれも牧師か信徒が描いたもので署名入り、アナログ派としてはたまらない。内容も牧会通信、説教、○月受洗記念会、CS教師の横顔、家族礼拝のお知らせ、俳句、訪問記など興味が尽きない。何より簡潔で読みやすい、文字も親しみやすい。その中で特に心に残った一文がある。飼いだを失った牧師の手記である。「時おり過去の週報をひっくり返してみる機会があるが、それは私の書いたものの中から逸し去ることのできないものの一つだろう。読むたびに胸がしめつけられる……情極まって悲しみ深し」。手渡された週報（伝道文書）にこのような記事が載っていたら、教会に行ってみたいと思うのではないだろうか。

（寺田）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL : 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

500 部限定

【全巻セット縮刷版】
説教、聖書研究の準備に！

新約聖書本文に現れる全ギリシア語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化し、価格も半額に！

●A5判・上製・3巻セット函入、本体63,000円
第I巻544頁、第II巻644頁、第III巻600頁



《星・内容見本》

ギリシア語新約聖書釈義事典

H・バルツ／G・シュナイダー編
荒井献／H・J・マルクス監修

5月の新刊（価格表示は税抜）

地球共生社会の神学
「シャローム・モデル」の実現をめざして
某方敬告



共生社会構築が急がれる今、教会がすべきことは何か？ キリストにおける和解と平和を見つめ直し、愛の実践と取り組みを紹介する。

●A5判・280頁・本体2,500円

地球共生社会の神学

「シャローム・モデル」の実現をめざして



A・E・マクグラス 佐柳文男訳 C・S・ルイスの生涯

●A5判・550頁・本体4,900円

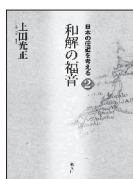
『ナルニア国物語』の物語世界の内奥には、どのような思想が潜んでいるのか？ 現代を代表する神学者が克明に描きだす、深い思索と信仰に貫かれた生涯。

日本の伝道を考える2

和解の福音

上田光正

●A5判・208頁・本体1,500円



伝道の不振が叫ばれる今こそ、百年先の教会を考えよう！ 堅実な牧会・伝道を続けてきた著者が贈る、「日本伝道論」。第2巻では、「喜びの知らせ」である十字架と復活の福音を学ぶ。

1 日本人の宗教性とキリスト教

●A5判・210頁・本体1,500円

3 伝道する教会の形成

●A5判・288頁・本体1,900円
(6月刊行予定)

好評発売中！

近藤勝彦

『伝道する教会の形成——なぜ、何を、いかに伝道するか』

130

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549

本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP : <http://www.shinkyo-pb.com>, email : sales2@shinkyo-pb.com



イエス・キリストの信仰
ガラテヤ3章1節～4章11節の物語下部構造
リチャード・ヘイズ 著 河野克也訳

イエス・キリストの信仰

ガラテヤ3章1節—4章11節の物語下部構造 信仰義認の意味！
リチャード・ヘイズ著／河野克也訳

人が救われるのはイエス・キリストへの信仰によるのか、それともイエス・キリストが信ずる信仰によるのか？パウロの「ピステイス・イエス・クリストウ」は主格的属格なのか対格的属格なのか。長きに渡る論争に鮮やかな解決を提示した古典的論文の待望の邦訳。

◆A5判・本体6500円



実践する神秘主義

普通の人たちに贈る小さな本
イヴリン・アンダーヒル著／金子麻里訳

現代人の霊性のために

5月20日

20世紀前半の英国の小説家・詩人にして神秘思想に関する多くの著作を著し、英国教会で黙想会の指導者としても活躍したアンダーヒル。本書は、一般の人々にも届く言葉でキリスト教信仰の霊性を再解釈・再評価した名著であり、今なお広く読み継がれている。

◆四六判・本体2100円



今、なにをなすべきか

戦後的価値の擁護と発展のために！

5月20日

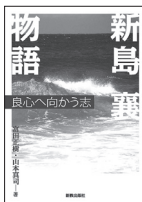
日本がアジアの中で孤立と反動化を深めつつある今、隅谷没後10年を覚え、その志を継ごうとする姜尚中氏が戦後的価値の擁護とアジア的連帯を熱く訴え、隅谷を慕う和田春樹・加山久夫両氏が応答する。

◆A5判・本体1000円

新島襄物語 良心に向かう志

富田正樹・山本真司著 何を求めて駆け抜けたのか
中学・高校生たちのために書き下ろされた「新島襄入門」。襄が何を願い、いかなる志をもって生きたかを、近代史を背景に、豊富な図版と平易な文章で解き明かす。オールカラー。

◆A5判・本体1200円



パパやママががんになったら

藤井あけみ著 いのちの意味を考える。

チャイルド・ライフの出会いから

◆B6変型・本体1500円

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三三六〇一六五二〇 振替〇一七〇一五一一六七九

発行人 本村利春 編集人 中川忠 印刷所 横平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円（税抜七二円）（〒62円）
一年分一三〇〇円（送料共）